資料６

１　新診療所の目指すべき姿

新診療所の整備にあたっては、課題解決へ向けた今後の方向性を踏まえ、将来にわたり持続可能な医療の提供を行うことで、住民に信頼され、住民が住み慣れた地域で安心して医療が受けられる診療所を目指します。

地域に根ざし、医療、保健、福祉、介護の架け橋となる診療所
～住み慣れたまちで安心して暮らし続けるために～

①誰もが安心して利用できるやさしい診療所

○ 安定した外来診療体制を維持し、誰もが安心して受診できる体制を構築します。

- 患者の利用に配慮した分かりやすく簡潔な院内動線計画
- 感染症が疑われる患者専用の動線や診察スペースの検討（発熱外来）
- 感染症が疑われる患者の対応として車内での問診が行える施設・駐車場の配置
- 安定した外来診療体制に寄与する患者情報管理手段として電子カルテの導入検討
- 職員にとって働きやすい環境を構築するための効率の良い業務動線と環境整備（職員の休憩スペースや給湯室、更衣室の設置を検討）
- 救急搬送された患者を直接処理室へ搬入できる配置
- 必要なときに必要な診療が受けられる検査体制の確保
- 質の高い医療を提供するためにCT等の機器導入を検討
- 診察室は診察用ベッド、点滴用ベッドが置けるスペースを確保

○ 診療所を利用する人の誰もが安心して利用できるよう、プライバシーの確保やユニバーサルデザインに配慮し、木材を活用した温もりのある施設とします。

- 高齢者をはじめ誰もが利用しやすい施設とするため平屋建の建物で検討
- 患者が利用しやすく、安全に配慮した駐車場を確保
- 扉は引き戸を採用
- 施設内で快適に過ごせるよう採光や換気に配慮
- 診察室を区切るなど、患者プライバシーに配慮した計画
- 待合室等を通らずに検査室への移動が可能となる動線の確保
- 高齢者、障がい者の利用に配慮し、誰もが安心して通行できる通路・廊下
- 雨天時でも快適に利用できるよう入口には屋根を設置
- 「バリアフリー法」及び宮崎県「人にやさしい福祉のまちづくり条例」に基づいたユニバーサルデザインに配慮した計画
- 建築資材に日向市の森林資源の活用を検討

○ 災害発生時に迅速な避難を行うことが可能となるよう、施設・設備配置に配慮した施設とします。

- 分かりやすい院内動線やサイン計画の作成
- 燃えにくい材料の使用、わかりやすい避難動線

②地域に寄り添う診療所
○ 介護や福祉と連携した訪問診療や訪問看護を実施することにより、地域包括ケアシステムの深化・推進を図ります。 ・ 周囲の医療機関、介護保険施設との連携による地域包括ケアシステムの推進 ・ 訪問診療・訪問看護を積極的に推進 ・ 地域包括ケアシステム推進のための電子カルテ導入検討（情報共有については継続検討が必要） ・ 見守り訪問の実施により、地域で安心して暮らすための環境を充実 ○ 相談窓口の設置による患者や患者家族が安心して相談できる体制を構築するとともに、入退院などの必要なサービスが円滑に受けられるよう、他医療機関との連携を強化します。 ・ 誰もが利用しやすい相談窓口・相談室の設置 ・ 日向市及び東郷エリアの他の医療機関、介護保険施設との連携の強化 ・ 他医療機関との連携を見据えた電子カルテの利用検討
③健康増進の拠点となる診療所
○ 検診（健診）事業の充実により、疾病の予防・早期発見につなげます。 ・ 検診（健診）事業による予防医療の充実 ・ 企業検診の実施 ○ 健康教室、出前講座等の保健事業を実施することにより、健康に対する意識づけに取組みます。 ・ 健康教室・講座の開催